

# 平成30年度予算編成方針

平成30年度は、未来の八王子の確かな礎を築く希望にあふれた年である。同時に、まちの活力向上と地域経済の発展を目指し、「八王子ビジョン2022」の中間見直しに合わせ、将来を見据えた大型プロジェクトを本格化させる重要な年でもある。

そこで、従来にも増して創意工夫を凝らし、自立した中核都市として、他都市に先駆けた本市独自の事業展開を行うとともに、若い世代が夢と希望が持てる魅力あふれるまちの実現に向けた予算を編成する。

## 1 財政見直し

本市の平成29年度の財政は、当初予算編成後に生じた新たな需要が見込まれる一方、市税収入及び税外収入が当初予算額を確保できない大変厳しい状況となっている。この現状を踏まえた平成30年度の財政見直しは、歳入において、法人市民税の税制改正や固定資産税の評価替えの影響により、市税収入の水準を引き続き低く見込まざるを得ない状況である。歳出においては、待機児童解消に向けた保育所運営の充実や高齢者・障害者に対するサービスの質の確保に必要な扶助費に加え、介護・医療系特別会計への繰出金といった社会保障関係経費への対応が必要となっている。こうした状況において、持続可能で健全な行財政運営を維持し、適切な市民サービスを提供していくには、行政手続きの電子化や提出書類の様式の統一など事務の効率化によるコスト削減はもとより、行政コスト計算書により明らかにした人件費を含む事業総額の徹底した見直しを行わなければならない。

## 2 予算編成の考え方

「八王子ビジョン2022」に掲げる都市像の実現に向け、選ばれ続ける都市を実現するため、人やまちの未来に投資する事業に対し、着実に実施するための予算化を行う。また、全国都市緑化はちおうじフェアをはじめとする市制100周年記念事業の実施においては、全庁一丸となって取り組んだ経験を活かし、分野や部門を越えて全庁的に連携し、施策の統合化を進めるとともに、実

施手法、対象、時期の見直しにより無駄を無くす効果的な事業構築に努める。

なお、アクションプランに計上する新規・レベルアップ事業は、確実な歳入と既存事業の見直しにより財源を確保した上で、1件毎に事業採択について判断する。

このほか、次に定める考え方にに基づき予算編成を行う。

- (1) アクションプランの実現性を高めるため、アクションプランの計画期間である31・32年度への影響を確実に見込んだ予算とする。
- (2) 市債の借入れについては、基金残高とのバランスを見ながら、将来の負担を考慮したうえで、30年度末の全会計の市債残高が1,000億円台となるよう借入額を計上する。
- (3) 予防保全の観点から計画的な維持管理を行うこととした施設については、財源対策として新たな基金を創設するなど維持や更新にかかる経費負担の増加に備える。
- (4) 光熱水費等の積極的な見直しによる所管部の削減額については、予算編成において、同額をインセンティブとして付与する。

以上を踏まえ、次に定める基本方針に従い、予算見積書を提出すること。

## 基 本 方 針

- 1 「八王子ビジョン2022 アクションプラン」の策定と30年度予算編成は並行して行うため、アクションプランと予算要求に齟齬のないよう見積もること。ただし、最少の経費で最大の効果を挙げられるよう、事業費の算定にあたっては、あらゆる視点からの検討・検証を行うこと。
- 2 既存事業は、歳入歳出改革の取組や行政評価の結果を反映し、見直し・再構築を図るとともに、創意工夫あふれる、効果・効率的な事業構築を行うこと。
- 3 国・東京都の動向を注視し、最新の情報を捕捉して効果的に活用すること。さらに、本市は都内唯一の中核市であることから、その権限を最大限活用し、独自の事業展開を図ること。
- 4 市議会の審議結果はもとより、市民の市政に対する意向を反映するよう努めること。
- 5 第8次行財政改革大綱に掲げた目的を達成するための取組を反映すること。特に重点取組の一つとして位置づけた施策マネジメントについては、平成29年3月に策定した「公共施設マネジメント推進計画」に定めた取組方針に沿って、施設の改廃や既存施設を活用した新たなサービスの展開を進めること。